



◆まち協防災セミナー

2011年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の東日本大震災が発生!!

その時、学校ではどのような対応が行われたのか…千葉県旭市立飯岡中学校の事例…

旭市の被害状況

- ・ 人的被害…死者 13 人、行方不明者 2 人
- ・ 住宅被害…全壊 336 戸、大規模半壊 429 戸、半壊 502 戸
床上浸水 675 戸、床下浸水 273 戸

【講演要旨】

- ・ 震災当時の飯岡中学校の校舎は築 40 年以上で、建て替えではなく校舎移転が決まっていた。震災当日は卒業式の直前で、その準備をしていた。鉄筋にも関わらず、校舎が大きく揺れた。生徒数 450 名。校長は出張中不在。
- ・ 身を守る措置後、校庭へ避難したが、ほどなく津波警報が発令された為、高台にある公園に避難。住民及び生徒を迎えに来る保護者対応のため、職員 3 名を残す。



講師：飯岡中学校教頭（東日本大震災時）
伊東 進 氏（旭市出身。教員生活の
2/3 を旭市で過ごす。）



旧国道を埋め尽くす
ガレキの山

- ・ 保護者に避難状況を知らせるために「スクールメール」を発信したが、キャリアによって配信時間が大きく異なり、遅いものでは 8 時間後というものもあった。避難場所の連絡や安否確認に苦労した。
- ・ 震災以前の防災対策として、災害発生時の生徒の避難については原則的なことの共通理解の他に、海岸に近いという立地条件から津波の襲来もある程度予想していた。今回の震災では、校庭への第一次避難に続き、間髪を入れずに 700m 離れた内陸にあるふれあい公園に第 2 次避難を実施できた。そのため生徒・職員は全員無事に避難できた。（「津波が見えたら、校舎の上階へ!」「津波警報が発令されたら、高台へ避難!」と決めている。）
- ・ 避難完了後に津波が学校まで押し寄せ、多くの施設で床上浸水し、一部は崩壊した。

今回の飯岡中学校の対応は、教頭先生をはじめとした職員の献身的な働きと、震災発生からの初期対応が適切だったため、生徒・職員全員が無事に避難できた。それでも、学校では今回の経験から多くの課題と対応策をまとめている。

房総半島東方沖の巨大地震への津波対応マニュアルの作成、保護者との連絡方法の改善、災害時避難用品の準備、保護者が迎えに来れない生徒への対応、発災による精神的不安定の生徒への心のケア、災害後の授業再開に備えた教科書手配、授業再開時の昼食の確保など。

津波の被害がないと言われる佐倉市にとっても参考になることは多い。必要な防災対策の速やかな実践が望まれます。

東日本大震災の時、学校はどのような対応をしたのか… ～千葉県旭市飯岡小学校の事例紹介～

「もし、首都圏直下型地震が発生したら…」と多くの住民の皆さんは考えたことがあると思います。町内会や自治会、まち協も含めて、平時の避難所運営会設置の必要性などを佐倉市と協議しています。

ただ、その中で避難所である学校側や教職員の役割や協力の在り方という議論の情報はあまり聞きません。現在は、住民中心の避難所運営委員会が運営を担いますが、飯岡小学校の事例を検証することもやはり必要だと考えます。



時間	その時の状況と対応など
14:46 頃	① 地震発生時 ・ 1 年：すでに下校 ・ 2 年：下校指導中 ・ 3～6 年：大掃除 停電無し、水道断水 ・ 職員が車で学区内見守り。(下校した 1 年の状況確認)
14:49 頃	② 津波警報発令 ・ 児童・担任は校舎 3 階へ避難 ・ 校長・教頭等は職員室(1 階)で情報収集 ・ 電話連絡できず、スクールメールにより避難状況を保護者に連絡し、引き渡しを開始
15:14 頃 15:24 頃	③ 大津波警報発令 ・ 市の避難勧告発令 ・ (本校は地域の指定避難所であるため) 住民等の避難者の増加→職員による誘導
15:50 頃	④ 飯岡に大津波到達 ・ 避難者より、下永井の低い地域で堤防から津波があふれ、地域が浸水したとの情報が入る
17:20 頃	⑤ 大津波第 2 波到達 ・ 校門手前数十mまで浸水(学校から堤防まで 250m) ・ 校内への避難者は約 1000 名 ⑥ 避難者への対応 ・ 市防災担当職員の到着→市職員と学校職員で協議・協力し、避難者に対応 ・ 保健センター職員等の到着→避難者の健康観察、簡易手当、薬服用者等への対応 ・ 保健室と隣の教室を救護用にし、保健センター職員、養護教諭等に対応(津波に吞まれ全身濡れた方、入院していて安静を要する方等) ・ 避難場所として、2・3 階の教室を開放 ・ 避難物資の手配・配布：毛布、食料(アルファ米)、飲料水(ペットボトル)等
19:00 頃	・ 児童の保護者への引き渡し完了、安否確認終了 ・ 避難者の教室ごとの名簿作成(避難者は 594 名) ・ 職員による校内の見回り、校内やトイレの整備

飯岡小学校の指定避難所としての対応

- ① 被災後の 3 日間 3 月 11 日～ 14 日**
 - ・ 市職員と学校職員で協力して対応
 - ・ 校長・教頭 … 3 日間泊りで対応
 - ・ 学校職員は 3 交代制で対応
- ② 消防団の活躍**
 - ・ 本校舎前の簡易水槽の設置(断水のためトイレ用に)
- ③ 授業再開への取り組み 3 月 14 ～ 15 日**
 - ・ 14 日以降、避難所の運営は市職員のみ
 - ・ 本校者の避難者を東校舎へ移動し、東校舎を避難所に(避難者数約 210 名)
- ④ 授業再開 3 月 16 日～ 短縮 3 時間**
- ⑤ 避難所の解除 5 月 22 日**

震災から学んだこと

- ① 地域の特性に合わせた防災訓練、防災指導の重要性**
 - ・ 学区内の防災上の特性の詳細な把握
 - ・ 地域・保護者への周知、合同訓練(地域で子どもを守る体制)
- ② 市などの関係機関との防災体制の共通理解の必要性**
 - ・ 避難所としての備え(停電、断水等)
 - ・ 最悪のケースを想定した平時の備え

まち協公開セミナー 「人と自然が調和する子どもたちの食とは」

(日時) 2025年6月29日 14時～16時

(場所) 千代田・染井野ふれあいセンター 第一会議室

※講演に先駆けて、映画『いただきます2』を上映

(講師) 管理栄養士 押久保美貴子氏

☆八千代市で長寿食堂『かぐれ』を経営。旬の食材及び季節の養生という漢方の考え方をもとに、身体に合わせた料理を提供。

(講演要旨)

映画『いただきます』に出てくる人物は皆さんとても生き生きしている。特に印象的なのは、土の中に“菌ちゃん”がいっぱい出て来ている。菌ちゃんがいっぱいいる土壌には根を張った植物が実をつける。その実を食べることで、生命力があふれた身体が作られていく。実は、身体の中にも菌ちゃんがいっぱいいる場所がある。それは腸。100兆個の腸内細菌がいるといるといわれ、その中には良い菌もいれば悪い菌もいる。



映画「いただきます2 ここは、発酵の楽園」は、微生物や菌がカラダを強くすることを教えてくれる、食育ドキュメンタリー。食育の大切さを描いたドキュメンタリー「いただきます みそをつくる子どもたち」の続編。2作目となる本作は、「植物、微生物、ありがとう」をテーマに、無農薬と有機野菜の大切さについて気付かされるドキュメンタリー。



“菌ちゃん先生”こと
吉田俊道さん

長寿食堂『かぐれ』で開催した『美腸整カルチャー』で、腸の中にどんな種類の菌がどれくらいいるかを3日間の食事記録をつけてもらい調べたことがある。点数の高かった人の特徴が2つ。

一つは、食物繊維をたくさんとっている人である。食物繊維を多く含むのは野菜だが、キノコにも多く含まれている。またワカメなどの海藻、大豆製品(大豆まるごとのもの)、玄米がある。

もう一つは、発酵食品をたくさんとっている人である。納豆、しょうゆ、みそ等に含まれる。昔はぬか漬けをつくっている家も多かった。ぬか床を毎日かきまぜるのは、手の常在菌を入れることによって、しっかり発酵させていくためである。ぬか漬けを食べることにより酪酸菌が摂れる。

今回上映した『いただきます2』は、無農薬の野菜中心の給食に切り替え、園児の病欠日が激減した保育園や、“菌ちゃん先生”と呼ばれる野菜農家が子どもたちと土づくりを実践する様子が描かれています。また、有機農業に取り組む人々、そして食農教育に力を入れる小学校の活動も紹介されています。微生物や菌が健康に与える影響や、無農薬・有機野菜の大切さも再認識させられます。

全国に広がるオーガニック給食とは？

オーガニック給食とは、農薬や化学肥料を減らして栽培された有機農産物や、できるだけ添加物の少ない調味料や加工品を使った給食のことです。オーガニック給食は、以下の点で注目されています。

- ・ **安心安全な食材**… 農薬や化学肥料を減らすことで、子どもたちが安心して食べられる食材を提供できる。
- ・ **食育の推進**… 給食を通じて、食材の生産方法や環境問題について学ぶ機会を提供できる。
- ・ **地域農業の活性化**… 有機農産物の安定的な提供先を確保することで、地域農業の活性化につながる。
- ・ **環境負荷の軽減**… 化学肥料や農薬の使用を減らすことで、環境への負荷を軽減できる。



学校給食において100%有機米を実現！
(千葉県いすみ市)

子どもたちだけでなく、私たち大人の健康にも“オーガニック”は重要です。お忘れなく！

地域社会と結びつく千代田地区の子供たちのサッカー活動に迫る



今回は、千代田地区を拠点に少年少女を中心にサッカーの活動を続けている千代田フットボールクラブ（千代田FC）を取材してきました！



夢 × 情熱 × 飛躍

平成10年4月にクラブを設立し、令和7年4月で27年目を迎えた、佐倉市で活動する8つのサッカークラブの中でも最も新しいクラブです。

⚽千代田FC創設者の根本榮彦さんにインタビューしました⚽

「クラブ設立の目的はサッカーというスポーツを通して子供たちの健全育成が主たる目的ですが、サッカーの技術の向上も大事な要素であり、また活動の方針としては地域貢献として活動拠点である染井野小学校の草刈りや清掃などの奉仕作業も行っております。

そしてクラブの基本理念である『夢』『情熱』『飛躍』は夢や目標を持って常に一生懸命情熱を傾け在籍する子供たち全員が共に成長（飛躍）して行こうというものであります。

さらに優しさや思いやりを持って、日々トレーニングし、社会の役に立つ人材育成（人づくり）も大きな活動の一環であります」

この取材を通じて得られた気づきや感動を胸に、地域社会への貢献や子供たちの健やかな成長を応援していきたいと思います。根本さんや子供たちのこれからの活躍に期待し、千代田地区の未来に一石を投じることができるよう、自らも力を尽くしていきたいと考えております。（インタビューー 広報部 佐藤洋二）

✿ 七井戸公園入口の花鉢の一つが甦りました！

七井戸公園入口の花鉢たち。二重づくりの木製で、なかなかの高級品。買えば数万円以上の品物。しかし、経年劣化が激しく、あちこち凹んだり小さな穴が開いていたりします。

特にこの2年間、問題だった鉢がありました。「縦10cm、横25cm」の大穴が開いている鉢です。さすがに誤魔化しての使用は限界。修理方法を思案している時に、救いの神が出現！仕事がひと段落の住民。自分の好きなDIYで何か役に立つことがあれば…とのこと。ちょうど目の前には花鉢があります。お願いしようと思ったのですが、お名前を聞くのを失念！

しばらくして、花の世話で公園に行くと、あの花鉢が美しく復活しています！**ありがとうございました！**もし今後も活動がご希望ならば、この街の公的部分は公園緑地課か道路維持課がだいたい管理しています。この2つの課とは長い付き合いですので、ご希望を伝えることができます。**ご連絡、よろしくお願い致します。**

「お花のおじさん」こと 小柳：090-9689-8153



✿ 編集後記

「子どもたちの食の安全」セミナーの編集をしながら、「ジジイの食の安全は？」との思いが浮かびます。「何を今さら…」と今まで気にも留めなかった事でしたが、家人の介護に明け暮れるようになると、「自分

が健康でなければ！」との自覚が生まれるようです。添加物も気になる毎日です…（小柳）

【追伸】例年、まち協 News で報告している「まちづくり協議会総会報告」ですが、今回は資料を含めて、まち協ホームページに掲載致しました。